

CT

CONCRETE TECHNOLOGY

| 2026/ 1 | Vol.45,No. 1 |

月刊コンクリートテクノ

COVER: 今津生コン

北川鉄工所製パッチャプラント
(ジクロスネオWHR-2800)

特集

人材採用の新たな「カタチ」 ～生コンの「明るい未来」へ～



剣道部採用で 人材確保

テレビCMも認知度向上に寄与

カワノ工業

カワノ工業（山口県柳井市、河野和明社長）は山口県内に3工場を構え、県内を中心に各種コンクリート製品を製造・販売。道路用製品から大型ブロック、L型擁壁、ボックスカルバートのほか、コンクリートパイプやヒューム管、マンホールなど多彩な製品を製造するとともに、プレキャスト（PCa）化による提案営業を強化している。近年、ユニークなテレビCMによって地元企業としての認知度が向上しているほか、社会人になっても剣道ができる企業としてPRを行うことで、高校や大学の剣道部での認知も高まり、採用活動にも良い影響が出てきている。同社の取り組みを取材した。

働き方改革など先進的に取り組む

カワノ工業は幅広いコンクリート製品を製造しており、オリジナル製品の開発も手掛けている。とくに「HCアングル付ふた」は同社オリジナル製品で、アングル付き（耳付き）のため、ベンチフリュームや現場打ち側溝など、ふたがかりのない側溝にふたをかけて簡単に道路を拡幅できる。高強度コンクリート・高強度鉄筋の使用により薄型軽量化が図れるほか、鋼製グレーチングよりも経済的で、車両走行時の音も低減する。2023年11月には柳井市の地域ブランド「きんさい柳井」の認証を取得した。コンクリート製品事業に加えて、住宅

リフォームや太陽光パネル・蓄電池の設置事業も展開している。

同社では「創意工夫」の理念のもと、全社員から毎月1人1件の改善提案を募っており、新製品開発・改良だけでなく、作業・設備改善、業務効率化、社員満足度向上、働き方改革など年間2,000件を超える提案が寄せられており、社員の意見を取り入れて改善を進めるなど、先進的に取り組んでいる。また、地域との共生にも力を入れており、本社所在地の山口県柳井市を代表する民芸品である「金魚ちょうちん」のアピールとして2019年7月から全国各地のイベントやお祭りなどで展示販売を



90周年を記念して製作した金魚ちょうちん

行っており、2023年の会社創立90周年の記念事業として900個の金魚ちょうちんを制作した。900個の金魚ちょうちんは展示後、市内の企業や店舗に贈呈し、飾ってもらっているという。

テレビCMは2018年から継続して放映

同社のテレビCMは、住宅リフォーム事業を一般消費者に向けてPRするために、2018年に制作。山口県内

の民放3局にてレギュラー放映開始。このCMは「カワノ工業ってコンクリートだけじゃないんですよ」で始まり「当社社員が責任施工。リフォームするならカワノ工業」のフレーズが耳に残るCMソングに合わせて、静止画のスライドショーが流れるもの。作曲はプロにお願いしたもの、歌詞のフレーズや画像の選定・編集は河野社長自らが手掛けている。「すべてをプロに任せて完成度の高いCMとするよりも、地元企業が自ら作ったという手作り感・ローカル色を大事にしたいと考えた。」(河野社長)

2018年以後、コンクリート製品製造の舞台裏や同社剣道部の紹介など、テーマを変えながら毎年、制作・放映を続けている。印象的なCMソングの影響もあり県内での同社の認知度は大きく向上した。「当社の採用に応募した高校生やその保護者からも認知していただいております、応募件数自体も徐々に増えていると感じる」と語る。

社会人でも剣道ができる会社

同社は剣道部の活動も活発で、剣道部として新卒・中途採用も行っている。同社創業者の河野新一氏は六段の剣士で、創業当初から剣道部の活動が行われてきた。現在の経営陣である河野通晴会長は教士七段、河野社長も六段の実力者だ。「当社は創業92周年を迎えているが、

CMは以下のQRコードから



コンクリート製品製造



リフォーム事業



剣道部紹介



リフォーム事業をPRするテレビCM



剣道部を紹介するCMも制作



全日本実業団剣道大会（日本武道館）

剣道部の歴史も70年以上に及んでいる。剣道部採用を明確に打ち出す以前から、地域の強豪校の剣道部出身者が入社するというケースはあった」

1992年に竣工した現在の本社の3階には剣道場を備えており、剣道部として毎週水曜日20時から地元の剣士も交えて稽古を行うほか、周南公立大学や東亜大学など地元に近い大学に出向いて稽古を行い、剣道部の学生へ企業PRを行うこともあるという。本社の剣道場は地域の小学生に剣道を教える「カワノ道場」としても活動

しており、カワノ道場は2019年に剣道の全国大会に出場した実績も有する。そのほか、役員や審判を小学校高学年が行い、低学年が選手を務める子ども主体の異色の剣道大会「カワノ杯ちびっこ剣道大会」の主催なども行っている。

現在の剣道部員は14人。全日本実業団剣道連盟に加盟しており、全日本実業団剣道大会に出場。毎年全国から300チーム以上が参加するなかで、2022年には3回戦へ進出している。個人戦にも参加しており、国民スポーツ大会や全日本都道府県対抗大会、全日本剣道選手権などの出場枠をかけた山口県

代表予選会に出場。幾度も代表選手を輩出している。2024年の佐賀国民スポーツ大会では同社剣道部部長の谷岡薫教士七段（執行役員開発部副部長）が山口県代表の副将として出場し、2025年の都道府県対抗大会では山口県代表の大将を務めている。

地域密着型企业として持続的に成長

剣道部採用は通常の採用プロセスとほぼ同じだという。「剣道をやっている・やりたいという人には面接を行った後に日程を調整して、実際に剣道部を体験してもらっているが、その他はとくに違



少年剣士の育成支援 ～カワノ道場～
毎週月・水・金・夜は、地域の小学生の指導を行っています。



いはない」。採用後の配属や勤務体系なども通常の正社員と同じで、本社から遠い勤務地の部員もいるため、通常稽古も自由参加となっている。大会の前などを除いては部員全員が揃うことは多くはなく、あくまで剣道をやりたい・続けたい人に場所や機会を提供している形になっている。

葛和大敬さん（四段、柳井営業所勤務）もそのひとり。宮崎県出身で小学校高学年から剣道をはじめ、東亜大学剣道部を経て同社に入社した。大学時代には中四国学生剣道選手権大会で優勝を飾った実力者だ。

社会人になっても剣道を続ける場合、警察官や刑務官・教員など公務員が選択肢となるケースが多く、大学時代に個人戦での優勝経験を有する葛和さんもこうした就職先の勧誘もあったという。「私の場合、剣道を続けたいという希望はありましたが、定期的に通院が必要な持病があることもあり、緊急の出勤や出勤が必要な警察官などの仕事を全うできないのではないかと考えていました。地元の宮崎県では実業団に入って剣道ができる企業がなく、剣道をやめることも考えていたとき、当社に入社していた先輩から社会人でも剣道が続けられると聞いて当社を志望しました。現在は、定期的な通院などの配慮をいただきつつ、剣道を続けられることができています」と話す。剣道部では全日本実業団剣道大会に出場するなど、すでに実力を発揮している。

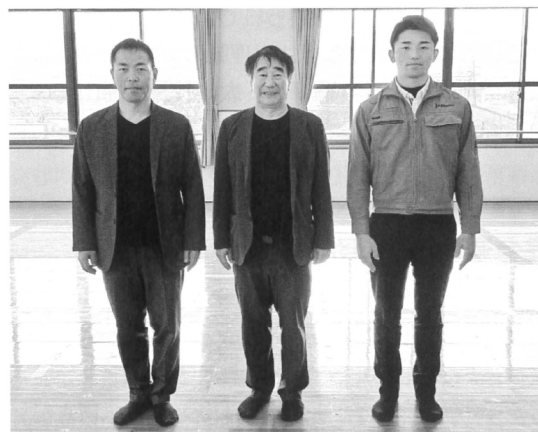
一方で、コンクリートには入社するまで関わっておらず、入社してから勉強を続ける日々だという。「コンクリートや土木の知識はなかったため、上司や先輩方に教えていただきながら仕事に取り組んでいます。終業後に剣道場で竹刀を振って気持ちを切り替えることができるのもよいと感じています。着実に一步一步仕事を覚えて一人前の営業マンになり、剣道でも全国大会で活躍できるようになりたいと思っています」と話す。

河野社長は「近い将来に、ベテラン世代の大量退職を



本社3階にある剣道場

控えており、人材確保は喫緊の課題となっている。大学新卒の採用は厳しい状況が続いているが、剣道部採用によって当社に応募いただくケースも増えてきている。CM効果もあって高卒新卒は保護者からも認知されていて、毎年ある程度ご応募いただいている。また、子ども時代にカワノ道場に通っていた人が、剣道は続けていないとしても、当社に応募して採用につながったケースもある。CMによる認知度向上やカワノ道場、剣道部採用など様々な取り組みが実を結びつつあると思う。今後も積極的に人材確保を進め、地域密着型の企業として持続的な成長を続けていきたい」と話す。



左から谷岡薫剣道部部長、河野和明社長、葛和大敬さん